

平成 24 年 11 月 12 日

会社名 株式会社アールテック・ウエノ

問合せ先 ビジネスマネジメント部長 中村 宏司

電話番号 03-3596-8011

## 平成 25 年 3 月期第 2 四半期の業績に関するお知らせ

本日、当社は平成 25 年 3 月期第 2 四半期決算短信を発表しましたのでお知らせします。

当四半期における主な内容は以下の通りです。

### 【四半期実績推移】

(単位：百万円)

	平成 24 年 3 月 第 2 四半期	平成 24 年 3 月 第 3 四半期	平成 24 年 3 月 第 4 四半期	平成 25 年 3 月 第 1 四半期	平成 25 年 3 月 第 2 四半期	対前年同期	
						増減額	増減比
売上高	953	733	1,446	739	<b>1,093</b>	139	14.7%
レスキュラ®点眼液	376	357	790	237	<b>419</b>	43	11.6%
AMITIZA®カプセル	547	369	616	495	<b>585</b>	37	6.9%
研究開発支援サービス	30	6	39	6	<b>88</b>	58	192.7%
売上総利益	660	464	1,000	453	<b>708</b>	47	7.3%
研究開発費	160	*409	190	277	<b>206</b>	45	28.6%
営業利益	287	△121	633	6	<b>300</b>	12	4.4%
経常利益	281	△116	643	4	<b>297</b>	16	5.9%
当期純利益	179	△83	411	5	<b>205</b>	26	14.9%

\*平成 24 年 3 月期第 3 四半期の研究開発費 409 百万円には、一般財団法人化学及び血清療法研究所への遺伝子組み換え人血清アルブミンのデータ使用許諾料が含まれております。

## 【計画達成率】

(単位：百万円)

	2013年3月期 第2四半期	2013年3月期 (第2四半期計画)	上期計画に 対する達成率	2013年3月期 (通期計画)	通期計画に 対する達成率
売上高	1,833	1,871	97.9%	4,432	41.4%
レスキュラ®点眼液	657	672	97.7%	1,933	34.0%
AMITIZA®カプセル	1,080	1,094	98.7%	2,331	46.4%
研究開発支援サービス	94	104	91.1%	168	56.5%
営業利益	306	325	94.4%	618	49.6%
経常利益	302	327	92.2%	623	48.5%
当期利益	210	212	99.1%	405	52.1%

売上高、および利益は、想定通りに推移しております。

経営に関する最新情報（平成24年7月1日から現在まで）

- ・平成24年7月6日、武田薬品工業との仲裁申立ての結果が判明し、武田薬品及びスキャンポ社と締結したAMITIZA®カプセルの独占的供給契約（Supply Agreement）は継続することとなり、損害賠償も認められなかったことを発表いたしました。
- ・平成24年7月9日、スキャンポ社が日本において慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）治療薬としてAMITIZA®カプセルの製造販売承認を取得したことを発表いたしました。
- ・平成24年7月12日、当社の化合物であるイソプロピルウノプロストンのドラッグデリバリーシステムを開発するため、国立大学法人東北大学と共同研究を実施することを発表いたしました。
- ・平成24年7月19日、当社取締役と従業員に対して株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を発行することを発表いたしました。
- ・平成24年7月31日、スキャンポ社は、米国食品医薬品局（FDA）に対してルビプロストン（米国製品名：AMITIZA®カプセル）の非癌性疼痛患者を対象としたオピオイド誘発性腸機能障害

(OBD) 治療薬を新たな適応として追加新薬申請 (sNDA) を行ったと発表いたしました。

・平成 24 年 9 月 19 日、スキャンポ社は英国において慢性特発性便秘症治療薬としてルビプロストン（米国製品名：AMITIZA®カプセル）の製造販売承認を取得したことを発表いたしました。

本日、平成 25 年 3 月期第 2 四半期決算短信について、経営陣を代表して当社代表取締役社長 眞島行彦は、以下のコメントを発表しました。

「本日、株主の皆様への利益還元等を目的として、3 億円の自社株買いを発表しました。今後も引き続き株式市場の動向を注視しつつ、機動的に資本政策を行いたいと考えております。

また、当社は本日、平成 25 年 3 月期第 2 四半期決算短信を発表しました。売上高、利益共に想定どおりに推移しております。

前期と比べて今期が減益になっている要因は、主にパイプラインの集中と選択の結果、研究開発費が増加するためであります。当社は新たな収益基盤の確立を目指し、研究開発に注力してまいります。

AMITIZA®カプセルについては、スキャンポ社が日本において慢性便秘症、英国において慢性特発性便秘症の製造販売承認を取得したことに加え、米国においても非癌性疼痛患者を対象としたオピオイド誘発性腸機能障害治療薬を新たな適応として追加新薬申請を行っております。当社は AMITIZA®カプセルの製造受託を行っておりますので、これらの販売地域の拡大や適応拡大が当社の将来の収益に貢献すると見込んでおります。

当社は、今後も創薬ベンチャー企業として、次世代の新薬上市のための研究開発に重点を置き、より多くの患者様の QOL 向上に貢献したいと考えております。」

以 上